



サカタニ友の会ニユース

巨大地震

語りつく・証言・小さな町をみこんだ



宮城県巨理郡山

本町に平成10年「語りつく」をあいことば

発足の町の昔の民話を語りつく「やまもと民話の会」が、東日本大震災1周年の前に表題の本を出版されたと知りまし

た。既に第1・2集まで発行されていたので買いを求めました。その第一集庄司アイさんの「はじめに」文を書き写した。

はじめに やまもと民話の会 庄司アイ

私たちの仲間の大事な一人が津波の犠牲になりました。

髪かきむしって、泣き叫びた。五月になった、避難生活の私の小さな部屋に集いました。その時、二人の方が退会となりました。

十数年、小さな力をあわせてやってきたのに、続行があやぶまれました。やっと、持ち話もいくつあつて、これかと思つた矢先のことでした。

残つた六人、顔を寄せて、今回の震災体験を語り合つた時私たち自身にも悲壮なパノラマを見るごとく、ドラマがありました。

「語りつく」をあいことばに民話をやってきたこと、この震災を語りつがなければ、の使命と責任を感じました。テープレコーダーもないパソコンもない向かう机もない今だからこそ、真実を伝えられるのでは・・・と。

自然にはさからえないんですはむかつてはならないんです自然と睦みあつて、これからもこの命を大事にいきよう。

【本は値段記入はないが一冊500円・数冊手持ち有り・近く三集が出る・ご希望があればお申し出ください。】

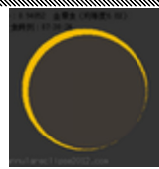
読後感想：話し言葉で地震津波状況、運不運・人情の機微がその場にいるように読めた。

小さな町ではあるが大きな勇氣を戴いた気になつた。「絆」以上に人々の「結びつき」の強さを感じ、そして同じことが東京や京都で起れば、どうなるかと考えさせられた。

発行所
株式会社サカタニ
集西楽・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京
東山区七条こころ坂下
・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp
とんからりんは
毎月発行の
会員新聞です
編集・酒谷義郎
yosirou@sosake.jp

この本1・2集共
ギャラリイカフェ集
に置いてます自由に
お読み
ください
求むは
お読み
ください

現れた。大宇宙の中で極めて絶妙なバランスで生き物が住む地球、人間そのものも自然物である。篠田謙一氏(国立科学博物館人類学研究所長)原発が存続する限り原発から出る使用済み核燃料は、10万年程度は地下で保管しなければならぬ。



自然にはさからいませぬ

古事記に天照大御神が天石屋戸に入り暗闇で大騒ぎとある。恐らく皆既日食こと、天照既日食こと、天照折も折、1839年以来173年にその時代から日の出を拝む人がぶりに日本で(5月21日)金環食いた。最近はお正月だけの人が目が見られ(次は2009年)宇宙・多い。それも無い。それで自然の雄大さを身でもって知れる。なくエネルギー源として太陽を自分でつくれると思いがつた。折も折、1839年以来173年に結果が「原発事故」という形で発は止めと誓いたいと思う。

第87回:朝粥食べておシャベリ会 報告

定例・3/18・第3日曜

朝粥を食べる前、朝粥会では初めの企画

「京都女子大学落語研究会」の学生さんお二人に落語を演じてもらいました。

女御亭 おか喜さん

演目は、「元犬」

藤乃家 木屋町さん

演目は、「堪忍袋」

お二人とも「枕」には独自の工夫をこらし、お声もよく通り、身振り手振りもお見事でした。

嬉しい気分の一日となりました。



蛇足ですが、日蝕(日食)

は、太陽と地球の回っている間に月が入つて、太陽の光さえぎり起こる現象。月の位置で太陽が一部欠けて見える部分蝕、全部隠れる皆既蝕、月が小さく太陽光がリングに見える状態を金環蝕と言う。

神代の時代は恐れたが、人間は今、時、所、日蝕の規模も判る知力を得た。が、それを、変更させることは出来ない。

五月の金環蝕を見て考えよう。地球は宇宙の星の一つ。薄皮のような地表と水とお覆う大気で成り立っている。その部分は「生態圏」と言い人類もそこにある。

その薄皮の極々ごく一部にひび割れた。それが東日本大震災。地震や津波は、過去にもあり大被害もあつたが人類は克服してきた。

今回は、その生態圏の中で太陽エネルギー源核融合・熱核融合を人間がつくりその熱で発電する原発事故が加わつた

遠く離れた太陽からの紫外線でも癌になる。金環蝕もメガネをかけて見ないとダメな。そんな力を人間が押さえ込めるはずは無い。幼児のころ「火を玩具にしたらアカン」と祖母にしかられた。「日を玩具」にした人間に、人類は生態圏でのみ生きられる動物だと地震で自然は叱つたと思おう。

三ツいちゃんの ひとりごと



昔の爺婆さんを

見習おう

2007年から復活

れた日本全国学力テストで、秋田県の総人口約九千人の八峰町の小学六年生が学力日本一となった関連記事を読みました。

この地区には学習塾は一つもなく、一位を目指して特別な教育はしていないと言います。最近では国内だけでなく外国から視察団がくるそうです。記事によりますと、この地域の特徴は、三世代同居の家族が多く、お年よりは子どもを、子どもはお年寄りを大切に

にする気風が強く、又、学校や教師を尊ぶ風土が昔から根付いていて、新聞で目にする給食費未納問題もモンスターペアレンツも登校拒否もゼロだとのこと。教師も、文科省や教育委員会の方を向くのではなく、児童生徒の家庭と向き合い、教育に取り組んでいるとありました。(注)モンスターペアレンツ=超極端な親馬鹿他。フツと、自分の子ども時代を思い出しました。学校では先生は絶対だったし、祖父祖母父母には逆らえなかった。電車では言われずともお年寄りに席をゆずり、霊柩車に出会うと「親指」を他の指で隠したものです。三世代同居は

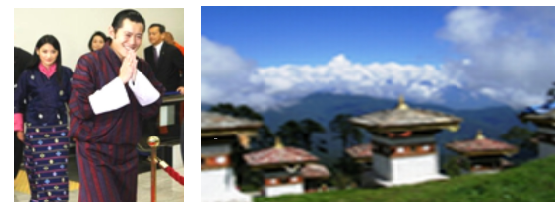
ザラ。一人っ子は少なく、近所には、怖いオッサン・オバハンが居て、悪さをすると、他人の子どもでも叱ってしました。そのころは子どもたちを「地域全体の子だ」の意識で育てたのでしよう。子どもたちもそれを素直に受け入れていたのです。

今は世界的に「損：得」が判断の基準。かつて「お客様は神様」でしたが、お客様の顔をした「悪い神様」が増えたような気がします。「売り買いはお互い様」「円より縁」

「見える物質より見えない情」を大切にしてきた日本のお爺ちゃんお婆ちゃんたちを見習わないとモンスターだらけの日本になりそうです。

テレビ映像で
ブータン王国に
昔の日本を見た

ブータンには、インドと中国にはさまれた南アジアの国。九州ほどの面積で、人口は70万弱(島根県程)の小さな王国。



昨年11月国王ご夫妻が来日され国会でもお話をされた。その国の映像が先日、NHK・T

シゲちゃんの 疑問 第8回

医療は大往生の 邪魔している？

山科区にある老人ホーム「同和園」で診療所所長を

している中村仁一医師の本が、三十万部近いベストセラーになっていきます。書名は「大往生したけりや医療とかかわるな」、サブタイトルは「自然死のすすめ」です。

中村先生はこの本の中で、現代の医療とそれに過度に依存している現代の日本人を歯に衣着せぬ舌鋒ですらどく、そして面白おかしく批判しています。

要点を記せば、医療は人間が自分で治ろうとする力(自Vで流れた。農業国だが人口は増加、大家族で一つ屋根で住み、村人たちの交わる姿はかつての日本を見ているように写っていた。

この国は、自分は幸福と思っている人が、世界一だという。最高の幸せは経済発展で得られると信じてきた日本。たしかに経済的には豊かに見え、超便利な国になった。が、思いやり、心の豊かさは減ってしまった。船中だけでなく、日本中八策・十策を建て実行すれば、日本は日本のやり方で幸せを取り戻せる。

然治癒力)を助けることができないだけ、医者はお助けマン、薬はお助け物質にすぎない。なのに、現代の日本人は医療に過度に期待して、ちよつと熱が出たぐらいですぐに医者にかかると。人間が死ぬことも本来は自然の摂理にゆだねるべきで、死に向かっている人間に延命治療を施すことは「拷問」を加えているに等しい。といったことです。

私は中村先生が主宰して毎月第三土曜日の午後、ラポール京都で開かれていた「自分の死を考える集い」に何度か参加し、先生が繰り返し説くこうした主張を共感と敬意をもって聴いてきました。

先日の集いで中村先生は、自分の本がこんなに売れている理由を「医者常識は世間

のどん底、崖から飛び込むような気で、「ワイン&フーズ」カター」を現在地で開店。その開店セール最中、祖母が「お客さん一杯来やばってよかつたなあ」と声を掛けて帰りました。特売が終わる9日、吉田に住む祖母を訪れ2時間ほど話をし別れ際に開店祝いしてくれました。翌十日(体育の日)は、初めての休業日。2時前に父から電話「おばあちゃん

祖母きぬ83の 40歳の10月1日。紆余曲折、貧乏にお勤めが終わる、参拝の信者さんにお礼の挨拶「本日は：有難うございます」と頭を下げるお辞儀をして頭を上げないまま「めがね」がポトリと落ち、信者さんが驚いて肩に手をかけたときは既に事切れ状態だったので。直ぐに救急車で病院に運ばれましたがダメ。10日の宇治行は知って前日「気をつけて行きなはい」と別れたのが最後の会話。祖母は母以上の私の母でした。

井上茂樹(文筆業)

京都&東山 ぶらりピカリ

32

東山の 瓜生石 なみだ石

先日、「とんからりん」読者の方から、知恩院前通(神宮道)と華頂通の三叉路上「垣」の中に有る石は何と尋ねられた。



国民学校4年生のころ遠足で行った時、聞いた記憶が有って詳しくは知らないが「隕石」と聞いていると答えた。がっと思つた。隕石なら、「はやぶさ」が小惑星イトカワから持ち帰つた物質が話題になつて、今、騒がれないのは変だとネットで調べた。

その石は隕石でなく、瓜生石(ウリユウセキ)という名前が付いていた。そして知恩院七不思議に、「左甚五郎の忘れ傘・驚張りの廊下」などと肩を並べてなっている。

この石は知恩院より古い由来を持つとされ、貞観2年(888年)6月14日の深夜、この石に一夜にして瓜(キュウリ)が生え、



「根性大根」

実つた伝えられ、又この下には二条城まで続く通路があるとの伝説もあるとか。今、時々騒がれる「ど根性野菜」はこの「瓜」が元祖であるとか。
なみだ石は京都国立博物館西側・大和大路通旧正門から続く、石垣の北端にある大きな石である。

巨石は1586年(天正14)、関白の座についたばかりの豊臣秀吉が大仏と大仏殿の造



と、まず明治四十三年、嵐山電車軌道(現・京福電鉄)によって嵐山からの線路が開業します。当時の地図を見ると、ここから西には人家がほとんどありません。電車は市街地の西端に当たる四條大宮付近まで伸びてきたのです。市電四條線は、大正元年に四條大宮へ達し、以後、千本・大宮線が延伸されていきま

市電が走った街 京都を巡る 福田静一



四條西洞院を発車した四條線の市電は、チンチン電車の北野線と合流し、全国的にも珍しい三線式の軌道上を西へ向かいます。四條堀川では北野線を掘川通に分岐します。北野線が走つてきた昭和三十六年までは、ここにも停留所がありました。北野線廃止とともに停留所も廃止され、市電は幅の広い堀川通を突き切つて、まもなく四條大宮に到着です。市電は、ここで二手に分かれ、北西に千本線、南へ大宮線分かちます。四條大宮は、市電の軌道が、変則の三叉路になっていました。

四條大宮の鉄道の歴史を辿る



阪急大宮駅の前を走る市電。市電がなくなっただけで、背後はほとんど変わっていない(昭和47年)



四條大宮で道路上を折り返すトロリーバス(昭和44年)



京都には珍しい変則三叉路を走る市電(昭和47年)

飲食チェーンなどが入る複合ビルになっています。かつての四條大宮から、新しい四條大宮へ変身を見せる今日この頃の姿です。

営のため各地から巨石中の巨石を集めさせ、石垣を築いた。大名の中でも蒲生氏と豊臣家の筆頭の重臣であった前田利長が運んだ石が大きく、前田家は、この時なんと一万人の人力夫を使ったと伝えらる。提供した石には、その費用の重さで流した涙を表すように、石の表面にクッキリと白い線が見える。人はこの石を前田公のなみだ石と呼んでいる。正面通の名は、大仏殿の正門前を今に残している。

都線の前身となる新京阪鉄道が、大阪・天神橋から路線を伸ばし、この年、西院から大宮までの間が地下線で開業します。関西で初の地下式鉄道でした。当時の駅名は、その名も「京阪京都」、今の阪急線に「京阪」は奇異に思われませんが、新京阪鉄道は、その後、京阪電鉄新京阪線となつたため、京阪の名が冠せられたのです。以来、四條大宮は、文字通り京都の玄関口として機能し、多くの乗降客で賑わいを見せます。「京の新宿」とその賑やかさを例えられた時代もありました。
その後、昭和三十八年に、阪急京都線は河原町まで延長され、大宮は中間駅となります。それでも、特急は停車して、かつてのターミナル駅としての面目を保っていました。ところが、平成十三年、阪急の特急は、大宮を通過することになります(朝夕の通勤特急は停車)。阪急大宮駅の乗降人員も市電時代と比べると半減し、四條大宮の地位は、次第に低下してしまつたように思います。もうひとつ、四條大宮に鉄道があつたのを「存じ」でしょうか。ここから四條通を西へ松尾橋まで向かつていたトロリーバスなのです。形はバスですが、法規上は鉄道に分類されます。西へは市電の敷設計画があつたものの、途中に国鉄山陰線と交差するところから、市電より建設が簡易なトロリーバスが採用されたと言われます。車体はバスのため、市電のように折り返しが出来ません。そこで、四條大宮へ着いたトロリーバスは、クルマが信号待ちの間、半円を描いてグルッと方向転換し、再び発車していききました。このトロリーバスも昭和四十四年に廃止されてしまいました。
西の玄関として賑わつた往時の面影は、少し北へ行つたところにある、飲み屋街の路地ぐらいいでしょうか。当時の重要な娯楽であつた映画館も、かつては四館ありましたが、最後の映画館もなく、飲食チェーンなどが入る複合ビルになっています。かつての四條大宮から、新しい四條大宮へ変身を見せる今日この頃の姿です。

酒屋で生きて 生かされて



第六十八話 歳でコボケ

この欄を
書き始め

たのが2006年1月75号、それから6年余り年月が過ぎました。「とんからりん」も当初百号で止めようと思っていたのですが今月で5号になりました。「とんからりん」の初刊は1995年(平)60歳、その頃は、黒かった頭髪や眉毛も白くなりました。78歳の今も、裸眼で新聞が読め、階段は早足で昇降、風邪も引きません。左様に肉体的には問題ないのです。が、残念ながら、元々小振りの脳内メモリーが年齢と共に更に機能低下したようで、二ヶ月、本欄をお休みし、記事に目次を付け整理、読み直し整頓しました。

1号から50号までは、順序は通に書いてますが、以後は重複や押し付けがましい文が目立ちます。頭の中がコボケになっただけでなく、「我が強い」性格のためだと反省しています。同時に「前に書いた話」とお叱りもなくお読みくださった読者の皆さんにお詫び申し上げ、これからは懲りずにお読みくだされば有り難く存じます。

私は酒屋の「ぼんぼん」で

何不自由なく育ったように思われているようですが、余り人様の経験されないことも含め、波乱を楽しみ(?)ながら生きてました。何れ書こうと思っっています。

ヨシイちゃん

愛語

剣道の「小手」を得意技にしている

人がいました。彼の小手は、あまり早く「電光石火」とか「神技」と呼ばれていました。ところがある日の試合で、何度も小手を決めたのに、審判は認めなかつたといひます。

それで彼は、試合後に「あ

ビートルズ 2月祭

「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」という。二月はビートルズとともに逃げて行つた。これが実感。年明け早々に「ビートルズ2月祭」の構想の練り上げとその詳細の縄張りが始まった。そして、二月一日が来た。



ビートルズ研究会
会員さんシンポジウム

「展示物が少ない」と言いつつ、慌てて、補充。方々に月祭が知れ渡つて来たとき、示依頼が

まりにすばやくてもダメだな。審判の目に見えるように打つべきだった」と反省したといひます。なかなか味のある言葉です。

これを「俺の技が見えぬとはけしからん」とか「あんな奴に審判の資格がない」といへば角がたちます。

ところが、今の世界では、このように他人のを非難する言葉で充ち満ちていきます。

それは、自分だけが正義で他は悪であるという考え方に支配されているからでしょう。人間は「白でなければ黒」という生き方をしています。

我々の生活は、白でもなく黒でもない、多くのグレーの舞い込む。持参された方も現れる。次第に、体裁が整つた。傍ら、シンポジウム(2月11日開催)の準備が進行。

吉村会員がリーダーシップを執り、プログラムとレジュメ制作。ついでながら、報告書の仕上げ段階。黙々とこなしている氏には感嘆。

ついに、11日が来る。午後4時間の発表はある種の緊迫感に貫かれていた。集中は途切れず、驚くなかれ、50名程の参加者、居眠り皆無。報告書は、すでに述べたように、目下吉村氏が仕上げ作業。この11日を境にして、二月の逃走はスピード・アップ。瞬間に、下旬へ突入。

ついに、26日、演奏会の当日となる。トリビュート・バンドとグループがつぎつぎに登場。迫真のビートルズ・サ

部分でなり立っています。ですから自分優位を誇り非難する言葉はできるだけ慎みたいものです。

「審判の目に見えるように打つべきだった」という言葉は、負け惜しみにしても、ユーモラスで誰も傷つけていません。余裕というものを感ぜさせます。まさに仏教で言う「愛語」でしょう。

熱い場面になればなるほど「人を氣遣うように」言葉を使うべきだと思ひます。

引用の文は、自らの反省もこめ、天台宗務庁出版室発行平成24年2月10日「ともしび」vol.22よりお許しを得て掲載させて頂きました。

ウンズを演奏と相成る。ラブ・ルームは超満員。数はずでに三桁。大盛況。それにつづく、パーティーはしみじみとした盛り上がりであった。月末に向けて展示は継続。来訪者数は衰えず、それどころか、増加の一途。高校生の来訪には驚くと同時に感激。そして、29日がついに来た。祭の後始末は、酒谷さんと二人三脚。

今、中旬、まさに、去らんとする三月。集西楽サカタ二には深謝あるのみ。

ビートルズ研究会 小林 順

5月27日(日) 2時、後藤公多郎&スムウキー BEATLES LIVE 前売り・2千円 当日・2千3百円

編集後記

4月です。72年前(皇紀2600年昭15年)真教尋常小学校入学式を思いだす。雨の日、式は祖母と一緒にでた。

一年二年生は「ハ」組。身体大きいちよつと怖い先生だが、病気がちの私を体操免除にしてくださつた。

こんな昔をハッキリ覚えてゐるのに、最近、今日が何日か忘れる。話を家人にするとサツキ聞いたとピシヤリ。

「とんからりん」も読み返すと同じことを繰り返し書いた部分が沢山有り、ご迷惑をお掛けしたようだ。

ボケてきたなあと思ひながら「書くのを止めよう」と思ひますが、止めたら更に進行しそうで怖い。

新しいものに挑戦すれば、ボケ進行は遅くなると信じていることにして「PHONE」と「Face book」を勉強しました。

甘かった! 「PHONE」は頭以前に「指先」が大事だったのだ。ゲーム時代の子である孫に習っている。

ゲーム経験は、麻雀と一ヶづつ玉を入れた時代のパチンコだけ。小指は父を見て育ち、諦めるな!。日野原重明先生は100歳で現役、そこまではマダ22年ある。頑張ろう。目的に向かい一歩づつ進むと「ボケ」は追こせない。Y.